

7才時に肺炎で死亡した症例が1例あり、現在生存例は100例である。

術直後より発育・発達に全く問題のないものは、84例であった。合併奇形や合併症を認めたが、その後の手術治療などにより現在障害なしと判定できるものは4例であった。現疾患および合併奇形や合併症などで障害の残存しているものは12例認めた。腹壁異常や直腸肛門奇形および染色体異常や重症心疾患合併症例に障害残存例が目立った。

膀胱外反・尿道上裂症例の尿失禁に対する直腸代用膀胱の1例、腹壁破裂・恥骨結合離開の外性器異常の例、および多発奇形を伴うクラリーノ症候群について症例を提示する。

4) 新生児 Hirschsprung 病における根治手術の時期と術式

山際 岩雄・奥山 直樹
大内 孝幸・鈴木 律子 (山形大学)
高橋 一臣・島崎 靖久 (第二外科)

【対象】1992年からこれまでに新生時期に当科に紹介され治療された18例を対象とした。病型別では全結腸型(T型)4例、長域型(L型)2例、S状結腸型(S型)9例、直腸下部型(R型)3例だった。【結果】T型の4例、L型の2例およびS型の初期の1例と、鎖肛合併の1例は人工肛門設置後、他の10例には一期的根治術を行った。1995年まではDuhamel法を体重6kgでおこなってきた。1996年以後は新生時期に根治術を行った。1999年からは新生時期に経肛門的Soave法を行った。排便機能はいずれも良好だった。経肛門的Soave法もこれまで良好な排便を得ている。

【まとめ】GIAを用いたDuhamel法はほぼ満足すべき結果が得られ、生後早期の一期的Duhamel法でも、それに起因する合併症は見られなかった。開腹せずにいける経肛門的Soave法は低侵襲かつ良好な排便が得られた。

5) 新生児乳び胸に対するミノマイシン注入療法の経験

飯沼 泰史・岩渕 眞
内山 昌則・八木 実
金田 聡・山崎 哲 (新潟大学)
大滝 雅博・村田 大樹 (小児外科)
松永 雅道・和田 雅樹
佐藤 尚 (同小児科)

新生児乳糜胸3例を含む、小児乳糜胸6例に対しミノマイシン(以下mino)を用いた胸膜癒着療法を施行し良好な成績を得たので、若干の考察を加えて報告する。対象の内訳は先天性乳糜胸3例、術後乳糜胸2例、その他1例であった。乳糜胸の部位は両側1例、右が2例、左が3例であった。Minoは「成人量:Mino 300mg/生理食塩水20~50ml」を基準とし、患児の体重に応じて減量して胸腔内へ注入した。この6例につき、投与前の治療期間、投与回数、投与量、投与後の胸腔ドレーン抜去までの期間・経口摂取再開までの期間、副作用などを検討した。

6) 脊柱側彎症を伴った巨大臍帯ヘルニアの品胎第2子の一例

廣川慎一郎・魚谷 英之 (富山医科薬科大学)
塚田 一博 (第2外科)
二谷 武・小川 二郎 (同小児科)
宮脇 利男 (同小児科)
佐々木 泰・酒井 正利 (同産婦人科)
斎藤 滋 (同産婦人科)

症例は女兒、体外受精による品胎第二子で29週の胎児エコーにて臍帯ヘルニアを認めていた。32週2日帝王切開にて1200gで出生。脊柱側彎があり、胸壁、腹壁の変形は著明であった。顔面、四肢、胎盤、羊膜には異常を認めなかったが、短臍帯はなく単一臍帯動脈であった。臍帯ヘルニアは中條法にて修復したが出生直後より呼吸状態は不良で、両肺の低形成、遷延性肺高血圧症を認め、第1術後病日循環呼吸不全にて死亡した。いわゆるamniotic band syndromeは、小児外科領域では短臍帯、脊柱側彎を伴う臍帯ヘルニアとして認識されているが、本症例は品胎で単一臍帯動脈であったことより、胎児の可動制限、臍帯血管の血行障害が複合奇形を引き起こした可能性が示唆され、いわゆるBody stalk anomalyと呼称すべき症例と考えられた。